2013年11月20日

2013 さよなら原発埼玉県民集会実行委員会

事務局:埼玉県生活協同組合連合会 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5

電話:048-844-8971

原発はいらない!

11月24日、さよなら原発埼玉県民集会を北浦和公園で開催します

東京電力福島第一原子力発電所の事故から2年8か月が過ぎました。原発事故被害は広範囲に及び、 今なお14万人にも及ぶ福島から避難された方々はもとより、多くの国民が放射線の影響に不安を感じ て暮らしています。

あってはならない原子力発電所の事故を目の当たりにして、私たちは原発の抱える途方もない危険性を肌で感じました。そして、エネルギーのこと、原発や放射能のことを学び、原発をなくすことを真剣に考え、昨年10月 "原発はいらない"の思いを込めて「さよなら原発埼玉県民集会」を参加者2800人で開催しました。原発はいらない!の県民の声を集めて、来る11月24日(日)、さいたま市浦和区の北浦和公園で「2013さよなら原発 埼玉県民集会」を開催します。

この間、福島第一原発の高濃度汚染水の海への漏出が発覚し、地上タンクの汚染水漏れも相次いでいます。当事者の東京電力自らが港湾内への汚染水流出は続いているとの見方も示すなど深刻な事態が続いている中、政府は原発をなくす目標も、仕組みも国民に示すことなく、経済成長戦略のインフラ輸出の柱として、原発の輸出計画を進めようとしています。

今必要なのは、国が全責任をもって危機を打開することであり、そのためにも「収束宣言」を撤回し、 非常事態の認識のもと国内外の英知を結集して抜本的な対策をすすめるべきです。

さらに、東京電力をはじめ電力各社は、巨額の対策費を投じ、「新規制基準」施行のもと複数の原発で再稼働を進めようとしています。今すべきは、何よりも国の責任で必要な情報を提供し、国民の声を聴くことです。人類と原子力は共存することはできません。11月24日の埼玉県民集会では、エネルギーを原子力発電に依存するのではなく、省エネルギーを進め、原子力発電所を計画的に廃炉にし、再生可能エネルギーへの構造の転換を強く求めます。

2013 さよなら原発 埼玉県民集会(雨天決行)

日時:11月24日(日)10:30アトラクション

11:00埼玉県民集会

12:00パレード出発(北浦和公園~JR浦和駅東口方面)

場所:北浦和公園(JR北浦和駅西口5分) さいたま市浦和区常盤9丁目地内

主催:2013 さよなら原発埼玉県民集会実行委員会

実行委員·実行委員団体(順不同)

肥田舜太郎 (医師)、中村悟郎 (写真家)、杉浦公昭 (日本科学者会議埼玉支部幹事)

小寺降幸(原爆の図丸木美術館理事長)、鎌倉孝夫(埼玉大学名誉教授・原爆絵画展実行委員長)

高橋哲哉(哲学者・東京大学総合文化研究科教授)

埼玉県原爆被害者協議会、埼玉県生活協同組合連合会、原水爆禁止埼玉県協議会

埼玉県平和運動センター 他18団体

この件についてのご連絡・お問い合わせは下記事務局までお願いします。

埼玉県生活協同組合連合会 電話 048-844-8971

11.24 さよなら原発埼玉県民集会資料

2013年11月20日

2013 さよなら原発埼玉県民集会実行委員会

連絡先:埼玉県生活協同組合連合会

電話 048-844-8971

NO NUKES

2013 さよなら原発 埼玉県民集会

*原発にノー、休止中の原発再稼働に反対し、新規原発建設に反対します。 *再生可能エネルギーへの転換を求めます。

11月24日(日)10:30~ 会場:北浦和公園(JR北浦和駅西口5分)

さいたま市浦和区常盤9丁目地内

10:30アトラクション

上尾和太鼓の会"若駒"

埼玉アコーディオングループ"ウィンドバスカーズ"「レ・ミゼラブル」メドレー 埼玉うたごえ協議会&ねがい合唱団「Noow is the time」「釜石小学校校歌」

発言予定 鎌田 慧さん 他

県内各地の取り組み報告

12:00パレード出発(北浦和公園からJR浦和駅東口方面までパレードします)

13:00パレード終了

主催:2013さよなら原発埼玉県民集会実行委員会

実行委員·実行委員団体

肥田舜太郎 (医師)、中村悟郎 (写真家)、杉浦公昭 (日本科学者会議埼玉支部幹事)

小寺隆幸(原爆の図丸木美術館理事長)、鎌倉孝夫(埼玉大学名誉教授・原爆絵画展実行委員長) 高橋哲哉(哲学者・東京大学総合文化研究科教授)

埼玉県原爆被害者協議会、埼玉県生活協同組合連合会、原水爆禁止埼玉県協議会 埼玉県平和運動センター 他18団体

さよなら原発埼玉県民集会は、個人・団体の募金で実施しています。



2800人の参加者で会場を埋め尽くした昨年のさよなら原発埼玉県民集会(2012年10月8日 さいたま市文化センター)